

2016年9月23日(金) 晴れ。ナナロク社の村井さんにメールを送る。「2014年から描き続けてきた1ページ漫画の本を一纏に作って頂けませんか？」実は村井さんにごうごうお願いしたためたのはこれと二回目。2015年の11月に、今回と同じ依頼を便せんにごまとめ、1ページ漫画数十本を添えて送らせてもらった。その時は、「面白いですよ、でも自分の気持ちとしてはナナロク社で出版するまでには至らない」ということだった。その後、数社から単行本の依頼を貰っていたけれども、この1ページ漫画の本はナナロク社と作るのが一番面白くなりそうという予感がずっと頭にはあり、断り続けてきた。そして今日、だめもとで再び依頼を送信したわけである。お返事を待つ。＊ナナロク社は現在、代表の村井さんを含めて三人で動いている出版社。小さな出版社だから心もこもった良い本を作ってもえそう。という安易な考えでナナロク社を選んだわけではない。良い本ができることと出版社の大きさは関係ないと思うが、ただ自分の場合はブックデザインや売り方に関して、たぶん普通の作家よりも色々とこだわらねばならないので、ほとんどのことをお任せするのはではなく細かく一緒に考えて作って頂くのでできそうなお社がよかった。でもやはり一番の理由は、ナナロク社が自分の好きな本をたくさん出している出版社だったから。川島小鳥さんの『未来ちゃん』『明星』、ウィット・ポンニミット(タムくん)さんの『ヒーローインシリアルズ』、藤原裕矢さんの『へろへろ…』。自分と同じく、Twitterに1ページ漫画をアップし続けて名前を広めてきた史群アリ仙さんのデビュー単行本『史群アリ仙作品集 今日』の漫画が良かったことも大きい。多くのWEB発単行本からは感じられないくらい多量かつ質があり、「べつにフォロワーやリピーター数が多少狙っていたとしてもこの人たちはこの本を作ったんだろう」と思わせる。丁寧に編まれた本。

2016年10月7日(金) 晴れ。梅田の本屋をぶらついたる時に、ナナロク社・村井さんからメールの返事！藤岡さんの考えなどもっと聞いてみたい、一度お会いしませんかと。と。16日に村井さんが書店イベントのため大阪に来るので、そこで会うことに。浮ついた足取りで店内を巡る。買った本はレイトン・カーヴァーの『頼むから静かにして(1)』。夜、バナナマンのDVD『bananaman live Love is Gold』を観る。日村さんの表現力にぶっ飛ばされる。「the Supernatura」というコトで日村さんが演じる「ヒムドン」がすごかった。

2016年10月16日(日) 晴れときどき曇り。夕方、心斎橋のスタンダープブックオフのカフェにて、ナナロク社の村井さんと初対面。本屋併設のカフェ、せいかくそばにたくさんがあるのをそれを見ながら話ませんかという点で、コーヒーを飲んだあとは本棚を巡りながら色々な話をさせてもらった。もしナナロク社で出版できるなら、どうすればいい本になるだろうかと、それをじっくり考えてから決めたい、というのが、今日、村井さんが一番伝えたかったことようだった。この日の最後は、新作1ページ漫画をもう5本描いてみてくれましたかと、ということになった。その5本を見てからまた色々と話した。と。村井さんと別れた後、すっから暗くなった御堂筋を梅田駅まで歩きながら、さっき話したことを反芻しながらアイデアや考えを巡らせた。

2016年10月17日(月) 曇り。村井さんから昨日の会話の中で、「夏がとまらないという1ページ漫画が特に好きだと仰っていて、それと絡めて藤岡の作家性についてこの意見を少し話して给你们。あの話、改めてもっと詳しく聞かせてもらってもいいでしょうか？」というメールをお送りする。

2016年10月19日(水) 曇り。村井さんから『夏がとまらない』についてのメール。以下、その全文。(掲載許可もりました) なにか新しいヒントを掴んだ気がした。————— 藤岡さん、こんばんは。ナナロク社の村井です。どうだかとしているうちに、メール、遅くなりました。さて、先日のお話をした、「夏がとまらない」についてです。つぎのようを考えています。見たことがないのに、見たことがあるように感じる、はじめてみるのに、思いつくように知られるもの、そして、おかしみが感じられるもの。これが、私が『夏がとまらない』といったもの』について、言えることです。藤岡さんの作品は全般に、いわゆる『あるある』ではなく、むしろ、そんなものたちは無い『ないない』なのですが、それを、『あるある』のように描いているところにも、私は、面白いと思っているところです。ただ、藤岡さんの独自性を強めることとして、季節の風情や、懐かしさや、あるいは優しいといったようなものが、感じられる作品を読みたいと思います。ここからは、書いていて難しなるのですが、なので読んで意味がとらえにくくても、それは藤岡さんのせいではないので、気にせず読んでください。とりえずず、書きます。私は、気にしな逃げない笑いで、笑えるものが、読みたいです。すでに、多くの芸人や喜劇作者によって、笑いの類型はたくさん出しております。それにより、読者、受け手も、かなり、訓練されてしまっています。良い面もあるのですが、ある程度この形で、笑いとして受容してしまうことが、あるかと思します。なんとなくこうすると不条理な笑いや面白く、ここは、ここは多少乱暴に終えても大丈夫だなとか、藤岡さんの作品がそうだった作品というところではないのですが、笑いを作るうえで、笑いには逃げ込める要素は、いまはとも多いように思うです。そういったなかで、藤岡さんの作品を読むと、心のなから、なにかが反応してくる、なにかを思い出す、といった、笑いとこのをつまみげた何か(それは笑いのなかで、私として、見てみたい)と思いました。そうしたい、私として、『夏がとまらない』はい、よい作品です。まあ、つらつら書きました。意を尽くせませんが、このまま送ります。創作のご武運をお祈りしております！！ 村井光男

2016年11月25日(金) 晴れ。今日やっと新作5本がたまったので、村井さんにお送りする。また近く大阪へ行くので話しましょう、と返信あり。

## こんな制作日記も読める。

「夏がとまらない」特設ページ：www.takutaro.com/natsugatomaranai

2017年1月24日(火) 曇り。例の新作5本を送ってから、年も明け、2ヶ月が経つ。今どういふふうなお考えでしょうか、と村井さんにメール。もっと早く連絡を取ってよかったのですが、このところキヤグ漫画合同誌(風見2さんに誘ってもらった)に載せる短編『スーパーレイト』を描くのについて聞いていて、それに1ページ漫画はスラック続き、年が明けてからも全然描けていなかったのでは何となくありがたくて先延ばしにしていたのである。ずっとである、やあらんが。村井さんより返信。さうと考えているのだがこれといった答えがまだ出ていない、とのこと。また近々連絡します、キラキラしたもの面白いものを作りたいと思っています、と。面白い本とは何なのだろうかと、改めて自分でも考える。＊最近、どうしてWEBで活動している漫画家やライターは、すぐ本を出しながらの。か、ステイサ上げたのしか、ハクを上げたためなのかというつぶやきを目にした。自分に向けられたつぶやきじゃなかったけれども、考え込んでしまった。自分はずせTwitterやInstagramで読まれては満足せず、「本」が作りたいのだろうか？それと電子書籍ではなく紙の本を。自分は今まで「紙の本」を買って本を読んできた。電子書籍はどうか肌合わないのでまったく利用していない。もちろんWEBマンガやブログなどは日常的に読んでいるし、有料メルマガを購読したり、有料記事を購入することもある。自分でも「キヤグ漫画の話」という有料の記事を公開したりしている。これまでに読んできたいくつもの素晴らしい本を、もし電子書籍で読んでいたとしても、当然、感動したと思う。紙やマンガ、タブレット、何でも読んでもいいものは良い。(そうでなければ自分もWEBで作品を発表したりしたい) 先ほどの疑問のつぶやきも自分が答えるとしたら、それは単純に紙の本が好きだからだと思う。紙の本はデータではなく、実際にものとして存在する。その実感が好きだ。「これおもろかったぞ」とデータやリンクを送られるより、紙の本を手渡されるほうが好きだ。本という形にまとめることで伝わるものが増える気がするから、本を作りたいと思う。＊とにかく、これから本を作って、読ん手に取って読んでもらったとき、なにかWEBでできている時に何が面白かったかとは思わせたくない。WEBで発表されたものをまたも本を読んだら、そういふことで結構あるから…。例えば、本という形にまとめることでWEB掲載時には絵にならなかったところがむしろ魅力である乾燥した絵や文章の「雑さ」が残念に思えた。無駄な乾燥なホームページやブログにぶっきたらばうにアップされたことこの複雑な魅力やカッコイイ感じ…そういう背景がなくなると綺麗な本におさまった途端、なんだかつまらぬものかと思えてしまった。本にするなら、その本ならではの面白さ/newたに作りたい。自分は、本を出したあとでもWEB上から作品は一切消さない。WEB上で全部読めるけど欲しいと思わせるような本を作る。適当なメモ。Twitterで発表する漫画は打ち上げ花火。本は手紙。

2017年2月7日(火) 晴れ。村井さんよりメール。小中学生の頃のヒーローをもとに短編を書くことはできないでしょうか、と1ページ漫画に加えて、なにか未来を見せる作品、そういうものも入れることができれば、ただ消費されるだけではない、かがけがない本になると思う、とのこと。2日に村井さんが大阪に来るのでまたお会いすること。2月2日にアップした1ページ漫画『オレオレ電話』がTwitterで6万リツイート。たぶん今まで一番読まれた作品になった。嬉しいけれど、笑いの部分というよりは一種の「共感」のところウケているようである。夜、DVDで『トークトゥー・ハー』(2002年スベイン/監督:ペドロ・アルモドバル)を観た。面白かった。

2017年2月22日(水) 晴れ。昼、梅田で村井さんと待ち合わせ。淀屋橋方面へ向かって歩きながら(さ、あ、どうい本にしましよう！藤岡本に載せざる、描きおろしの漫画でもいいんですけど、文章とかどうですかね、短いエッセイみたいな) 村井さん「文章いいですねえ」藤岡「さっき来る前に本屋でこれ買ったんですよ(灰谷健次郎・編、長新太・絵というのがある)」村井さん「最高です。藤岡さん/津田シカクという本屋さん知ってます？」村井さん「シカク」藤岡「そのシカクっていう店、結構 가까이いごとこにあって、一回頑張って行ってみたんですけど、あいてなかったんです。急な定休日かんですよね。村井さん「……。(笑)」藤岡「しまった、すこいオチのいい話をしてしまった)」村井さん「……」藤岡「……あいてないのかーい、と」村井さん「……あいてないのかーい」藤岡「(笑)」村井さん「いけどもいけどもあいてないのかーい」で一本描けそうですか。藤岡「あいてないのかーい」ですか？(笑)」藤岡「巻末に解説とあつて面白いですよね 村井さん「文庫本だと解説読むとわりと面白いですけど、漫画の単行本ってほとんどなく、もっとあつてもいいんですけどねえ」藤岡「ナナロク社の『ヒーローイット』シリーズとかはありますよね」村井さん「そうそう」藤岡「あれ見て、解説付けてるのいいなあって…まあでも自分の場合はキヤグ漫画なんでも、キヤグ漫画に解説をつけてるもの…」淀屋橋→本町の川沿いへ裏通りで2時間ぐらい歩き回りながら話し続けて、梅田に戻ってくる。とりえず漫画が文章か、なんか書いてみます、と言って別れる。エッセイと官能小説を組み合わせた『濡れなすび』というのを前置したんですけど…という話をしたので、帰宅後にメールでお送りする。

2017年2月23日(木) 曇り。村井さんより返信。「濡れなすび」とも良い、特に新聞配達の情報系を重なる部分が秀逸なので、この部分だけ新しく一冊にまとめるのはいかがでしたでしょうか、と。うーん、官能小説の部分を抜くと笑いの部分がごっそり消えてしまうので、その案は保留にさせていただきます、とりえずず新しいものを書いてみます、と返信。

2017年2月25日(土) 晴れ。街を歩きながら新作1ページ漫画のネタ出しと単行本のアイデア出し。youtu be で2008年ごろの『くいましちゅーのオールナイトニッポン』聴きたつ。前に深夜メルマガを発行してた

時に書いているような、ラジオで喋ってるみたいなのが文章を数ページごとに載せるのはどうだろうかと。真っ黒な見開きページの上に白い文字で。本屋でピースと吉さんの自由律俳句集『まさかジープで来たのも』をめぐりのから、短い文章がいろいろ並ぶ中、たまに放り込まれる写真がいっぱいアクセントになってるなと思った。逆に1ページ漫画の本や写真集の場合、文章がいいアクセントになるのでわあああ！と声に出した。嘘。声には出してない。夜、DVDで『疑難の専主』(1990年フランス/監督:ハロリス・ルント)を観た。変な映画。めっちゃよかった。

2017年2月28日(火) 晴れ。今回の本、正方形サイズがいいのでは、と思い立つ。自分の2コマ〜3コマの作品の形に一番合いそうだし、真っ黒な見開きページを作るとして、それをひらいた時、長方形よりも横の広がりが大きく、インパクトもありそう。

2017年3月1日(水) 曇り。文字のラジオではなく、「真夜中の話」とも題した2ページのエッセイを数編、数十ページごとに挟み込むのはどうか、早速、二編書いてみた。

2017年3月2日(木) 晴れ。昨日書いた「真夜中の話」二編を少し直して、ナナロク社・村井さんに送信。正方形のアイデア、簡単に試作もしてみたのでその写真とともに送る。夜、かめめんたるのDVD『下品なクラブ』を観る。「脳 YOU」というコトが最高だった。「脳が太るぞ」オレこの喫茶店出るときいつも走ってる。

2017年3月7日(火) 晴れ。村井さんより返信。正方形というデザインもいいかもしれないですね、正方形よりも少しタゲが長いでもいいかもしれない、まあでもデザインのことではデザイナーさんが決めてから一緒に考えていきましょう、と、「真夜中の話」読みました、改めて文章を活かすという形がいいと思います、とのこと。夜、DVDで『インヒアレント・ヴァイス』(2014年アメリカ/監督:ポール・トーマス・アンダーソン)を観た。30分で脱走。この監督の映画にとっぷりはまれる人ुरやましい。

2017年3月15日(水) 晴れ。新作1ページ漫画『ギヤル 怒りの高校受験』が2万リツイート超え。Twitterで作品発表を始めてから1万リツイート超えるは三度目。一度目は『ぼくのにおじいちゃんこれは皮肉の部分』がウケていたのだと思う。二度目は『オレオレ電話』これが共感の部分で広まったのだと思うが、今回は皮肉も共感もなく、ただぼかぼかしていただけで、このヒトは嬉しい。リツイートやお気に入り数字なんて普段どのくらい思いと想ってるけど、やっぱり自分が面白いと思えたものが広まるというのはいいものですね村井さんよりメール。あつて大阪に行くので会いましょう！

2017年3月17日(金) 晴れ。夜7時すぎ、梅田のMARUZEN&ジュンク書店で村井さんと待ち合わせ。それから村井さんと打ち合わせて書いた歌人の岡野大嗣さんと、一言あひさわせてみる。隣で村井さんが「人見知り同士(笑)」と、なんか嬉しそうにしている。こないだの1ページ漫画『ギヤル 怒りの高校受験』面白かった、特に手の描写がよかつたですと言ってくれた岡野さんと別れた後、すぐそばのNU茶屋町という施設で川島小鳥×Kanoco 展と『ファーストアルバム〜銀杏BOYZと川島小鳥〜展』をやっていたので、村井さんと二人でそのぞく。通路の一角の、無料で入れる写真展。そのほかビル全体を使って、巨大な写真が天井から吊るされたり床に貼られたりもしている。あー自分の1ページ漫画でこういうやり方やえなあ、と前かから考えていたことが、ますますその思いが募る。1ページ漫画は写真と似て、ほとんど目目でその面白さが伝わるから。本というのは多分、こういうイベントもできやするかな。主催者に依頼が通りやすくなるという意味だけでなく、展示の中心に「本」がある、おもしろいことやろと思うやすらうというか。藤岡「床に貼られた巨大なこの写真、いくら見るとするですかね」村井さん「x x万円でいいかな」NU茶屋町を出て、新大阪駅まで歩きながら話す。村井さん「かばん重くて肩がずれそう」「予約注文について」藤岡「特典付きの予約注文とかやらないか」と村井さん「いいですねえ。藤岡さんが汗をかか特典がいって。一冊一冊、手書きで何かを書くと…」(カマーページについて)『夏がとまらない』とかの部分カラーの漫画を、途中に挟み込むみたいねと村井さん。藤岡「冒頭より途中に挟むほうがいいですね」村井さん「うん、途中のほうがかっこいいですね。(1ページ漫画のタイトル部分について) 藤岡「このままでいか、明朝体にすると、手書きにするか…」村井さん「僕はこのままでいいと思います。この、何もう考えずに適当に付けたような書体が合ってると思うます」(シュリンク<書体>に並んだ時、本に付けられるビームリングについて) 藤岡「できれば付けずに並べてほしいんですけど、頼めばできるもんなんですか」村井さん「うーん、それは書店によってできたりできなかったり…」藤岡「小説はシュリンク付けられないですよ。僕の本も小説扱いに出すとか」村井さん「(笑)」試し読み冊子、試し読み用本、ポスターなど、置いてもらえるところには持ってゆきたい。ほとんどの店でシュリンクが付けられるのを、WEBで試し読みするにすぎない漫画がたくさんあるけど、なんなんだと思う。梅田から歩くこと1時間、新大阪に到着。村井さん「本当にこのあたりって何もないですねえ 藤岡「そうなんすよ」」「真夜中の話」の文章を五編ほど書くことにしたので、新しいものを語た来週までと送ることを約束して、村井さんは新幹線から東京へ帰って行った。

2017年3月25日(土) 晴れ。内沼晋太郎さんの『本の逆襲』を再読。元気もろう。これ、「本」や「本屋さん」にまつことまでなんか考えあぐねてる人にははともおすすめる本。シネマート心斎橋へ、ナ・ホンジンの新作『笑声×コロン』を観に行った。前の席の、頻繁

に左右に動きながら柿の種を食べ続けるおっさんの頭でスクリーンが1/4がずっと隠れている、40分ぐらい耐えきれずに席を立った。「すみませんもう少しく顔上げてもえませんが」と言って、舌打たられても嫌だし、あったらいいかなと出てくれるような人だったとしても、この人ずとこのことを書き続けて映画に集中できないという方かと感じてしまってます、でも言いませぬ。他の席も埋まっていたので、映画はそれで済ませられて、近くのスタンダープストアへ。これまでも1階と地下に売り場があったのだが、地下への営業に力を入れていた。夏葉社の『冬の本』と嵯峨友香さんの新刊刊かわろて堀越誠司さんのサイン本を貰う。サイン本が初めて買ったかもしれない。思ってたより嬉しいもんやな。自分も本できたらサインいっぱい書こう。その帰り道、テラノ配りの人に対して、みんな断りの会釈どころか目線すら向けずに歩き去ってあげて、怖かった。自分は微笑みながら受け取ってあげようと思いつて手差し出すと、女性向け化粧品系のチラシだったみたいで無視された。怖かった。

2017年3月26日(日) 曇り。ピースと吉さんの『東京百景』を読みながら、自分が今回作る本、正方形サイズにした熱が高まっていったけれども、形はこういう素朴なのがいいかも、と思つた。新書ぐらいの大きさで、手に馴染みやすいサイズ。なんかすぐく「本」って感じがする。

2017年4月2日(日) 晴れ。単行本に五編ほど載せる予定のエッセイ「真夜中の話」三編目を書く。

2017年4月3日(月) 晴れ。村井さんよりメール。エッセイ、笑いを作ろうとすぎているように思う。もつと淡々とやってもいいようなことを書いてみて下さい、と。雑かにならずと肩ひり張った文章だった。「真夜中の話」というくりもやってみよう。テーマが真夜中かどうかどうでも暗い思い出ばかりになっちゃった。たった数編だとしても、全体までが印象として暗い本になってしまうとどうである。明るいな本にしたいと思う。餃子を作る。近頃、餃子ばかり作って食べている。鶏がらスープの素とごま油を混ぜてフライパンにひき、水ではなくお湯を差して焼き上げると美味しい。

2017年4月4日(火) 晴れ。エッセイではなく、詩はどうかろうか。「少年時代」というタイトルで書き始める。矢萩多聞さんの『偶然の装丁家』読んだ。めっちゃくちゃおもしろかった。

2017年4月5日(水) 曇り。詩「少年時代」書き終える。一応 OK をもらっていい『真夜中の話』二編はいつの日か保留にしておく。あと、テーマ・フォックス』(2016年日本/監督:山下敦弘)観た。とてもよかった。2017年4月6日(木) 曇り。村井さんよりメール。詩「少年時代」とても良いです、漫画の構つこともあるもののようにも思います、と。「真夜中の話」掲載保留の件も了解頂く。

2017年4月7日(金) 曇り。新しいエッセイ「手の履歴」を書きはじめる。『サムサッカー』(2005年アメリカ/監督:マイク・ミルズ)を観た。ウインセント・ノフロとティルダ・スウィントンの夫婦がとても良かった。ウインセント・ノフロがメイン・ブランク』(1997)でエイリアンに体を乗っ取られた農夫のおじさんです。

2017年4月8日(土) 雨。「手の履歴」、エッセイというかまたもや詩の土壌に変わったけれども、とにかく書き上がる。なんか無性にマリサ・メイが見たくなったので借りてきた『いとこを観る』(1992年アメリカ/監督:ジョナサン・リン)を観る。判事役のフレック・グウィンという人が個性的な顔とでっかい手をしていて、画力(えちがち)がすごかった。マリサ・トメイはやっぴり可愛かった。夜はまた餃子を作って食べる。皮と餡(あん)のあいだに大葉を挟んでも美味しいよ

2017年4月9日(日) 雨。『エクス・マキナ』(2015年イギリス/監督:アレックス・ガーランド)を観た。キョウコ(ソノヤ・ミズノ)のダンス・シーンが衝突も含めて最高。大好きな映画『Mr.ビーン』の休日』(2007年イギリス/監督:スティーヴ・ベンデラック)。この映画で最高にきまめているエドワード・コーズが出てくるシーンだけ観るつもりが、また全編観ってしまった。ビーンと旅を共にする子供を演じる役者に味味がなく、そこだけがいつものたないなと思うけれども、とても嬉しい映画。『男はつらいよ』みたいに、Mr.ビーンでもっと何作も映画をつつてほしいかな。今回は映画しか観てないけど日記を書いてしまった。単行本制作にまつわるエピソードが特にない日は書かないようにしようと思ったのに。

2017年4月10日(月) 曇り。村井さんよりメール。詩「手の履歴」すばらしいです、と、細かい部分をアドバイス頂き、少し直す。詩も、沢山の人の読まれるのが楽しいである。今夜も餃子を作る。そんそるスーパーの店員の間で「餃子」と呼ばれていると思う。

2017年4月12日(水) 曇り。単行本に載せる三つ目の文章、「手紙」を書く。銀杏BOYZ・藤田和伸さんの『恋と退屈』(河出書館)を読んだ。素敵な文章、素敵な本だ。最後に載っているリリー・フランクlinさんの文章とても良かった。

2017年4月13日(木) 曇り。「手紙」も、村井さんからOK貰う。「真夜中」をテーマに書いた文章、一編だけやったりしても載せたいものがあり、少し直して送る。これもOK貰う。これら四つの文章ができた。「五番目の文章=あどき」はブックデザインなども全部決まったあとで、一番最後に書かせてもらうことになった。

2017年4月15日(土) 晴れ。単行本に掲載する作品選び。これまでWEBで発表した1ページ漫画、約450本の中から249本を選ぶ。本の値段は高くとも1200円ぐらいに留めたいのだが、大丈夫だろうか?『フ